白樺・百合

昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第26号　2015.12.21発行

発行責任者　富士吉田教育部長　小出良平
編集責任者　富士吉田教育部広報委員長　倉田知光
〒403-0005　山梨県富士吉田市上吉田4562
TEL 0555-22-4403

富士吉田キャンパス：医療人としての原点

富士吉田教育部　ウェルネス教育研究部門　教授　**大幡 久之**

雪化粧した富士山を目の前に、富士吉田キャンパスでの寮生活も残すところ僅かとなりました。入寮から今日に至るまで、学生たちは4学部が混在した寮生活の中で、さまざまな喜怒哀楽を経験し、そして学びを積み重ね、医療人への第一歩を踏み出しました。ここで得た多くの学びや人と人との結びつきは、将来医療人として患者中心のチーム医療を実践していくために欠かすことのできない「思いやりの心」や「コミュニケーション力」の向上の原点となるはずです。

また、富士吉田キャンパスでの基礎教育は、2年次以降それぞれの学部で行われる専門教育の土台を成すものであり、基礎の理解なくして高度化・多角化する医療を理解し、実践することはできません。さらに、4年間あるいは6年間で習得できる知識は限られており、ここで経験し身につけた"自ら学び考える姿勢"は医療人として成長していく過程で大きな原動力となるはずです。

42年前、当時は医学部と薬学部の2学部だけでしたが、私もこの富士吉田キャンパスで寮生活を経験しました。その面影は1号館に残しつつ、現在の4学部を抱える医系総合大学となったキャンパスに新しさを感じ、今も変らぬ富士山の雄大な姿に人生第二の故郷のようにこの地を思います。この4月から富士吉田教育部の教育に携わる機会が得られたことに、責任の重さを痛感しているところであり、それぞれの学生が個性を伸ばしながら医療人としての心構えを学び、それぞれの専門領域へ、そして社会へ羽ばたけるよう背中を押すことができれば、私にとってこのうえない幸せと考えています。

最後になりますが、富士河口湖町の産屋ヶ崎神社にある松尾芭蕉の碑文を紹介します。

「雲霧の暫時百景をつくしけり」この句は、瞬く間にその景色を変える富士の姿、富士百景の美しさを詠んでいます。四季折々の雄大な富士の姿を眺めながら、友と学び友情を育んだ原点であることを忘れないでください。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮（男子寮）」「百合寮（女子寮）」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をとげて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

湖上祭・火祭りを体験して

富士吉田教育部　助教　**猪俣　瞳子**

8月4･5日に今年も河口湖湖上祭が開催され、5日の花火大会は、小口理事長と小出学長、そして富士吉田教育部の教職員の皆さんと共に観賞する機会をいただきました。

河口湖は多くの人が訪れる観光地ですが、この日の花火大会の会場には今まで見たことのない程のたくさんの人が詰めかけ、その混雑した状態にとても驚きました。その熱気に圧倒されつつも、打ち上げられる花火への期待が高まりました。花火大会が始まるまでの時間は、お食事をいただき談笑をしながらゆったりと過ごしました。花火の打ち上げが始まってからの1時間半は、見応えのある花火の数々が湖畔を彩りました。

花火は多くの地元企業が提供しており、地元の人の手で守られてきたイベントなのだということを実感しました。昭和大学の花火も見事に夜空に打ち上げられ、水面にも美しく映りました。富士吉田教育部に着任して初めての夏でしたが、富士五湖のお祭りを締めくくる河口湖の盛大な花火大会を楽しむことができ、とても良い経験になりました。

8月26･27日には吉田の火祭りが行われ、26日の夕方には教職員の皆さんと参拝者で賑わう参道へ出かけました。お神輿が通った後の参道では、高さ3メートルの筍形に結い上げられた大松明と井桁に積まれた松明が次々と点火され、火が立ちのぼるとても迫力のある光景へと変わりました。

この火祭りは富士山の夏じまいのお祭りとして毎年この日に行われており、また400年以上の歴史があるということを知りました。様々な神事や言い伝えなど、富士吉田の地に富士山信仰が今でもしっかりと根づいているのだということを実感する良い機会となりました。古くから伝えられている地元のお祭りがあるということはとても貴重なことです。吉田の火祭りが毎年大切に守られ、正しく伝承されていくことを願いました。

"ありんこ祭り" ボランティア

歯学部　**加藤 早織**（日本大学豊山女子大学高等学校出身）

私はボランティアとして、"ありんこ祭り"に参加しました。ありんこは初年次体験実習の実習先としても訪問しました。実習の際は、障害のある方への対応の仕方がわからず、不安でした。しかし利用者さんを知っていくうち、その思いはなくなりました。最終日には、涙を流し、別れを惜しんでくださいました。私は、感情をはっきりと表してくださる利用者さんをお手伝いしたいという気持ちがわいてきました。

"ありんこ祭り"では、利用者さんが物を販売したり、調理したり、手話を披露したりと多くのことをスタッフの方のサポートのもと、行っていました。手話を披露する際は、練習の成果として、堂々と発表なさっていました。私を覚えていてくださっている人も多く、あたたかく迎えてくださいました。利用者の方の笑顔を見ていると私も本当に嬉しくて、ボランティアをして良かったと心から思いました。この貴重な体験は私にとって本当に大切な経験となりました。

1980年代の思い出

富士吉田教育部　教授（員外）　**長谷川真紀子**

写真を見ながら1980年代初期の富士吉田校舎を紹介していきましょう。アカマツとカラマツの林の中に建物が見えますが、右側奥から3号館、テニスコート、1号館です。中央のL字型の建物は2号館と白樺寮です。一直線に並んでいるのが、赤松寮と女子寮（現SGSC）です。ここに医歯薬3学部、約400名の学生が生活していました。後に、富士吉田校舎は大きく変貌を遂げ、たくさんの建物ができ、学生の学習環境や生活環境がより快適になっていきました。助手として学生実習に関わっていた当時を思い出しながら大きな出来事にふれたいと思います。

1981年には、新しく温水プールが完成し、みずすましがスイスイ泳ぎ、冷たくてブルブル震えながら泳がなければならなかった屋外プール（防火用水）とさよならをしました。体育の水泳の授業を屋外プールで受けた世代にはうらやましいかぎりです。続いて1984年には現在の4号館が建設され、図書室も実習室も以前よりかなり広くなり設備も充実しました。間取りは各教室に任されていましたので、流しの広さや実験台の配置、倉庫の位置など、一から考え図面に書きいれていきました。1号館の実習室は狭く、薬学部の学生が180人以上入室したときなどは、実習机を壁に押し付け、学生は壁を見ながら実習をする状況でしたので、新しい建物が完成したとき、教員は大喜びしました。また、備品などは旧実習室から教職員が運び出し4号館に設置しましたので、現在使われている机やイスは40年以上も前のものです。多くの卒業生が同じイスに座り学習してきたことを現在の学生にも感じてほしいものです。その後、1989年に百合寮のエレベーター側の建物と食堂・エネルギー棟が完成し、現在の富士吉田校舎にかなり近づいていきます。百合寮は4人で2部屋（寝室と学習室）を使用できるようになり、生活環境もかなり良くなりました。一番印象に残っているのは、新女子寮に当時はやりの「朝シャン」ができる場所ができたことです。それが百合寮で「お立ち台」と言われている設備です。おしゃれな形ではなく、少々不格好ですが、多くの学生達が使い方を工夫して現在も利用してくれていることを、当時高橋教養部長にお願いした者としてはとてもうれしく思っています。

この時代は活気に満ちあふれ、学生の皆さんはとても元気だったと記憶しています。

富士登山競走 救護ボランティア

健康スポーツ科学教室　講師
山内　里紗

第68回富士登山競走が7月24日に開催されました。この山岳レースの救護スタッフは地域の病院職員を中心に構成され、救護ボランティアには1年生35名、救急医療研究部の学生28名、教職員9名が参加しました。

この山岳レースは標高差3,000m、気温差21度のなか21km先の山頂を目指すものです。普段目にする雄大な富士山とは異なり、コースとなる山道は木の根や岩など自然の強さがみなぎるでこぼこ道ばかりです。さらに、標高が上がるにつれ薄くなる空気は、それまで登り続けてきたランナーの体力の消耗に追い打ちをかけます。スタート地点（富士吉田市役所）から5合目までの各配置場所についたボランティア参加者は、疲れが見えつつも一歩ずつゴールを目指すランナーへの声かけや給水所でのゴミの回収など、少しでもランナーの方々の力になれるようボランティア活動を行いました。そのほかにも、ランナー全員が安全にゴールできるよう各地点へ最終ランナーやコンディションが思わしくないランナーのゼッケン番号の報告、山道を駆け登るなか脚に違和感を抱いたランナーにはストレッチ方法を提供するなどの活動を行いました。

このように、ランナーや共にボランティア活動に参加した人たちと触れ合うことが自身の視野を広げることにつながると思います。ここでの体験、人や地域との関わりを通して連携のあり方や地域医療のあり方を垣間見ることができたのではないでしょうか。さらに、医師や看護師の姿を間近でみることができ、貴重な体験になったと思います。

「Mt.Fuji河口湖ジャズフェスティバル」から学んだこと

医学部　**岡部 純也**（芝高等学校出身）

11月1日、河口湖円形ホールにて開催された「第7回Mt.Fuji河口湖ジャズフェスティバル」に、奏者、ボランティアとして参加しました。ホールは収容人数100人と小規模ですが、一歩入るとプロや地域の方の演奏に圧倒されます。また、河口湖の北岸に位置しており、河口湖、富士山、そして時期的に紅葉を一望することができました。

ボランティアの活動内容としては、出演アーティストへのまかないの食事を盛り付ける、出店の手伝い、案内係などでした。このフェスティバルは地域交流の一環でもあり、参加した昭和大生はいろいろな人と関わりをもちました。なかにはプロの方と友達になった人も。とにかくそれぞれが貴重な体験をすることができました。

今回の活動を通して、ボランティアに参加すると普段ではなかなか経験のできない関わりを得ることができるということを学びました。今後も積極的に参加し、多くの関わりを作っていこうと思います。

編集後記

後期の富士吉田キャンパスは、季節が秋から冬へと移り変わるとともに、初年次体験実習をはじめとする多くの行事が実施され、学生にとっては充実した日々だったと思います。退寮間近の12月は後期定期試験や寮内各部屋の片付けで学生はもちろん、指導担当教員も慌ただしくなっております。

さて今号も年末に発刊する号として6面構成となっており、前期一時退寮日以降の富士吉田地域で行われたボランティア活動からイルミネーション点灯式までを誌面に収めました。なかでも昨年まで実施されていた学生主体のイベントである"ハロウィンパーティー"、"クリスマスパーティー"を今年は"ウインターパーティー"として統合し、内容も新たな試み満載で、多くの学生が実行委員として参加しており、大成功を収めました。

毎年変わるイベントや充実した学生生活の様子が伝わりましたら幸いです。今後とも『白樺・百合』をよろしくお願いいたします。

富士吉田校舎事務課　出口太一

ウィンターパーティー実施について

ウィンターパーティー実行委員長　歯学部　**北條 恭輝**（山梨県立甲府南高等学校出身）

この度、私は平成27年11月20日～22日の三日間にわたって行われた「ウィンターパーティー」に実行委員長として参加しました。富士吉田校舎開設50年ということで、寮祭に並ぶ大きなイベントを新たに開催することを目的にし、学生一同準備を行ってまいりました。今まで行われていたハロウィンパーティーとクリスマスパーティーを一つにまとめ、大きなウィンターパーティーとして開催することで日程的に学生の負担を軽減し、かつ非常にクオリティの高いものを創り上げることができたと感じています。これによって現行の6月の寮祭の将来像についても新たな提案をできたように思います。

今年のウィンターパーティーでは、寮対抗の10本勝負や立食パーティー、お化け屋敷に仮装ダンスパーティーなど、今までにない企画を行いました。特に10本勝負では学生同士の非常に熱く、ユーモアにあふれる勝負が行われ、昭和大生のパワーを感じることができました。三日間とも天候に恵まれ、体育祭と花火も予定通り屋外で行うことができ、参加してくれたすべての学生が生き生きとした表情で、大いに盛り上がったウィンターパーティーとなりました。後夜祭での冬の名曲をBGMにした花火は雰囲気が良くとても綺麗で、私自身とても感動しました。ウィンターパーティーの開催に伴ってカップルが増えたことも個人的には良いことなのかなと思います。すべてが初めてのことで手探り状態での準備となりましたが、50年目の新しいイベントとしてよい挑戦ができたように感じています。企画委員や部門長、部門員など様々な学生に支えられて出来上がったこのウィンターパーティーに初代実行委員長として関わることができたことを誇りに思います。

最後になりましたが、ウィンターパーティー実施にあたり協力してくださった先生方、事務課の方々、食堂ならびにボイラー関係の皆さま、そして学生一同に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

イルミネーション点灯式

中央委員長　医学部　**山内 彰人**（私立昭和学院秀英高等学校出身）

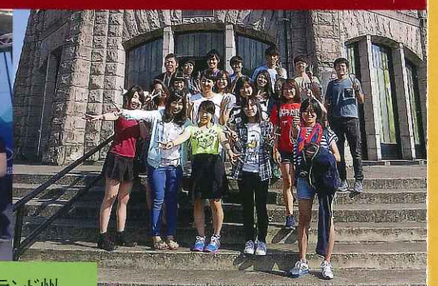
富士吉田では外に出ると日中でも本格的な寒さを感じる季節となり、寮生活もいよいよ幕切れの時期を迎えました。

さて、先日11月27日に、富士吉田キャンパスにてイルミネーション点灯式が行われました。点灯式は、管弦やアカペラ部の素晴らしい演奏によりスタート。外は凍えるような寒さにも関わらず、多くの学生が集い、点灯前のセレモニーとイルミネーションの点灯を見届けてくれました。点灯式には、小出学長をはじめ、多くの先生方も駆けつけてくださいました。

点灯したイルミネーションは、富士吉田キャンパス一帯におよび、今年初めて行われたウィンターパーティーの余韻を感じさせてくれるような雰囲気を作り出しています。このイルミネーションとともに、我々学生一同、寮生活を悔いなく終えたいと思います。

国際交流
PSUに参加して

医学部　**近藤 亜紀**（聖心女子学院高等学校出身）



私は、7月30日から8月23日までのおよそ3週間、ポートランドサマープログラム（PSU）に参加しました。前半はホームステイ、後半はポートランド州立大学の寮で過ごしました。私自身ホームステイをしたのは初めてで、どのような人の家にお世話になるのか緊張しましたが、初めて会ったときからとても温かく迎えてくださいました。夕飯を食べながら、一緒に買い物に行ったり料理をしたりしながら、様々な話をしました。小さなころどんないたずらをしたかなどの他愛もない話から、アメリカと日本の保険制度を比較した討論、アメリカで医師になるということはどういうことかについてまで色々な話をするなかで、私たち日本人とは違った考え方もたくさん見えてきて、視野を広げて世界を見ることの大切さを感じました。また、今回のプログラムではアメリカの医療施設を見学する機会、医療・保険制度について話を伺う機会が多くあり、まだ専門知識のない私にとってもこれからの将来を考えていくうえで、とても良い刺激になりました。3週間弱という短い期間でしたが、たくさんの人に出会い、たくさんの経験を積む、とても濃い時間となりました。

大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。

初年次体験実習

施設実習

薬学部　小森 礼絵（東京電機大学高等学校出身）

私たちの班が伺ったのは病院の療養病棟でした。後期高齢者の方々の介護をしている現場です。実習内容は、施設のスタッフの方々に付いて手伝いをさせていただくというものです。何も分からない学生だったので慣れないことが多く、初日は特にいろいろと迷惑をおかけしてしまいました。しかし、スタッフの方々が本当に親切で、どんな作業をしていてもずっと面倒を見てくださり、さまざまな介護の手伝いを経験しました。

90歳以上の利用者さんが多く、中には言葉ではほとんど会話ができない方もいらっしゃいました。初めはどのように接したらいいのか分からず、申し訳ない思いをしました。しかし、医療行為を行う際に痛がる利用者さんの手を優しく握る、表情をよく見るなど工夫をしました。少しですが安心された様子がうかがえました。コミュニケーションの手段は言葉だけではないことを学びました。また、スタッフの方々がテキパキと働いていて、忙しいなかでも利用者さんに親切になさっていたのを見て、私も将来このようにならなければ、と痛感しました。

実習最終日には利用者さんから「いい医療人になるように」と励ましの言葉を頂きました。医療人としての第一歩ともいえる貴重で有意義な経験ができました。今回学んだことを生かしてこれからの勉強も頑張ろうと思います。実習先のスタッフ・利用者の皆様、お忙しいなかまだまだ未熟な私たちを受け入れてくださり、本当にありがとうございました。

施設実習

病院実習

医学部　綿貫 義久（土浦第一高等学校出身）

初年次体験実習のうち1日を使い病院実習を行いました。一年生というこんなにも早い時期に病院実習を行った意義とはなんでしょうか。この実習を終えて自分なりに考えてみました。

この実習を通して学んだことは、三つあります。まず、今日の医療において欠かせないチーム医療のあり方を目で見て、そして現場で直接説明してもらうことでより理解が深まったこと。次に、実習先の病院がどのような工夫をしているのかを中心に説明していただくことで、患者思いの医療についてひとつの視点を学んだこと。そして三つ目は、病院で使われている医療機器の概要や手術の様子などを学んだことです。

実習を終えて思うことは、将来真摯に患者とともに病気やリハビリに向き合い、慰めと癒しを提供する良き医療人になるための自覚を得ることにこそ、この実習の意義があるということです。医療人として不可欠な倫理観や道徳観そしてコミュニケーション能力などはすぐに身につくものではありません。だからこそこの早い時期から医療人になるための自覚を持つことで、そうした不可欠なことと早い時期から向き合い、考えていくことができるのだと思います。

最後に、初めての実習で慣れずに迷惑をかけた実習班の仲間たち、わざわざ私たちのために時間を割いて見学をさせてくださった病院のスタッフの皆さま、そしてこの実習のためにご助力くださった昭和大学の教職員の方々に感謝申し上げます。

病院実習

学部実習

歯科診療所見学実習を通して

歯学部　山田 明佳（富私立桐光学園高等学校出身）

私は9月に行われた初年次体験実習の学部別実習に際し、富士吉田市内にある和（かず）歯科クリニックで治療の様子を見学させていただきました。

実習では、院内設備や治療の様子、歯の模型作りなどの見学に加えて、先生と歯科衛生士さん、歯科助手さんの連携の様子や患者さんとのコミュニケーションなど、実際の医療現場でなければ見ることのできない場面を見学することができました。また、患者さんへの挨拶やエプロンがけ、バキューム体験、自身への表面麻酔なども実際に体験することができました。そのなかで印象に残ったことは、カルテにその患者さんの持病や服用中の薬、これまでに行った治療などについての情報がまとめられており、それをもとに患者さんに体の状態を伺いながら治療をされていたことです。高齢化が進み、様々な疾患を抱えた患者さんが増えているなかで、口腔だけでなく全身を診ることのできる歯科医師になることの必要性を感じた場面でした。また、先生と歯科衛生士さんの息の合った治療や和やかなコミュニケーションの様子を見学し、患者さんに最善の医療を提供するためには医療者間での信頼関係がとても大切であると実感しました。

今回の実習を通して、二年次以降の専門科目へのモチベーションを高めることができました。また、実際に患者さんとコミュニケーションをとり、自分に足りない部分を発見することもできたと思います。この経験をこれからに活かして頑張っていきたいと思います。

在宅実習

在宅訪問実習

歯学部　松下　奨（富山県立富山高等学校出身）

今年度から新たに始まった実習があります。それは在宅訪問実習です。

在宅訪問実習では山梨県内の高齢者のお宅に実際にお邪魔し、その方の人となりや健康の秘訣、歳をとって困ったこと、人生観、などについてお話を伺います。

私たちの訪問先の方は、年齢を感じさせないほどの快活さのある方でした。その方は戦時中に日本軍の要塞で働いていたそうです。専門知識がないなかで悪戦苦闘しながらも、最終的には現場監督に上り詰めたというエピソードでは、その方の不屈の精神が伝わってきました。退役後は事業で成功して財を成し、現在でも仕事を続けていらっしゃるとのこと。仕事ひと筋の方だと感じました。

一方で、最近心配なこととして、奥さまの身体の具合のことをお挙げになりました。奥さまは現在病院通いを続けていらっしゃるそうで、広い自宅で一人きりになることが多くなったので、寂しさを抱えている、と今の心境を語ってくださいました。

今回の実習では、高齢者の抱える悩みというものがおぼろげながらも、理解できたという実感がありました。なかなか若者の視点だけでは高齢者の気持ちを理解することは難しく、そのためにもやはりコミュニケーションは必要だなと確信しました。これからも様々な人と話せるようなコミュニケーションスキルを磨いていきたいと思います。

救急法・BLS実習